

# 長崎県の新しい水稲奨励品種「にこまる」

長崎県総合農林試験場 作物園芸部作物科 主任研究員 古賀潤弥



長崎県で18年度より新しい美味しい米品種

「にこまる」の生産・販売が開始されました。

- 「にこまる」は平成16年度に長崎県の奨励品種に採用しました(当時「西海250号」)。
- 平成17年度に品種名「にこまる」命名登録されました。
- 平成18年度より県央、県南地区で本格生産が開始されました。
- 今秋より「ながさきにこまる」の商品名で販売が開始されました。

# 「にこまる」の家系は？

## 《系譜図》

IR8

ジミノリ

シヒカリ

シヒカリ

ガンマ線照射による突然変異

収2800

北陸100号

北陸96号

(ナゴユタカ)

愛知56号

(月の光)

ミネアサヒ

北陸122号

(キヌヒカリ)

北陸120号

東北125号

(コガネヒカリ)

中部41号

(チヨコシキ)

キヌヒカリ

(母)

は系626

(西海232号)

愛知92号

(祭り晴)

収4885

(どんとこい)

(父)

北陸174号

にこまる

(西海250号)



# 「にこまる」の誕生まで

1996年8月：九州農業試験場 は系626 / 北陸174号 人工交配

1997年～1998年 3世代まで増殖

1998年：個体選抜（分離した個体から選抜）

1999年：系統選抜開始

↓  
（選抜した個体1つの系統とする）

「泉722」の名で生産力検定試験、特性検定、系統適応性検定

2002年：「西海250号」の地方名で各県に配布。長崎県農試予備試験 有望視

2003年：長崎県農試 本試験。現地試験。

食味・品質・収量成績良く有望、米卸に試食、高評価、生産の要望

2004年：長崎県農試奨励品種に提案。奨励品種に採用。特別増殖種子生産

2005年：品種名「にこまる」命名登録。特別増殖種子生産

2006年：「にこまる」本格生産開始。約200ha

# 「にこまる」を選定するにあたっての 品種選定目標

## 県央、県南平坦地向け品種の選定

- ヒノヒカリより収穫時期が遅い品種  
ヒノヒカリに作付面積が集中（県内の7割）しているため、収穫作業が集中する、気象災害があった年には被害が大きくなるなどの問題があります。
- 美味しく、品質が良く、収穫量が多い品種。
- 特に温暖化の影響による品質の低下が少ない品種  
近年、温暖化の影響により夏～初秋が高温傾向にあり、その時期に登熟していく本県の米の品質低下に大きく影響しています。

# 「にこまる」の品種特性

収穫時期がヒノヒカリより遅い

田植

6月下旬

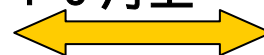


出穂期  
8月24日



収穫時期

10月上~中旬

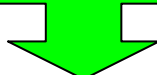


田植

6月下旬



出穂期  
8月27日



収穫時期

10月中~下旬



# 「にこまる」の品種特性

## 美味しい

ヒノヒカリ並に粘りがあり、柔らかく、しかも粒がそろっていて、しっかり炊きあがります。

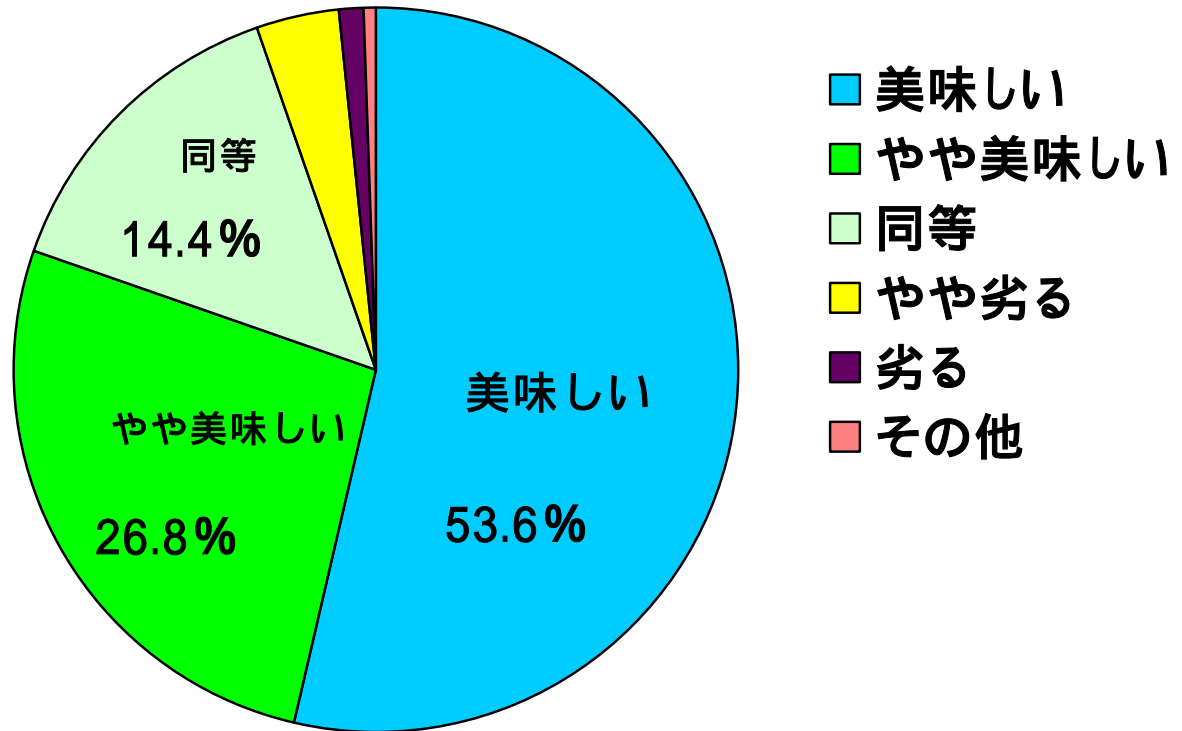


図1 ヒノヒカリと比較した美味しさアンケート結果

# 「にこまる」の品種特性

ヒノヒカリより収穫量が多い

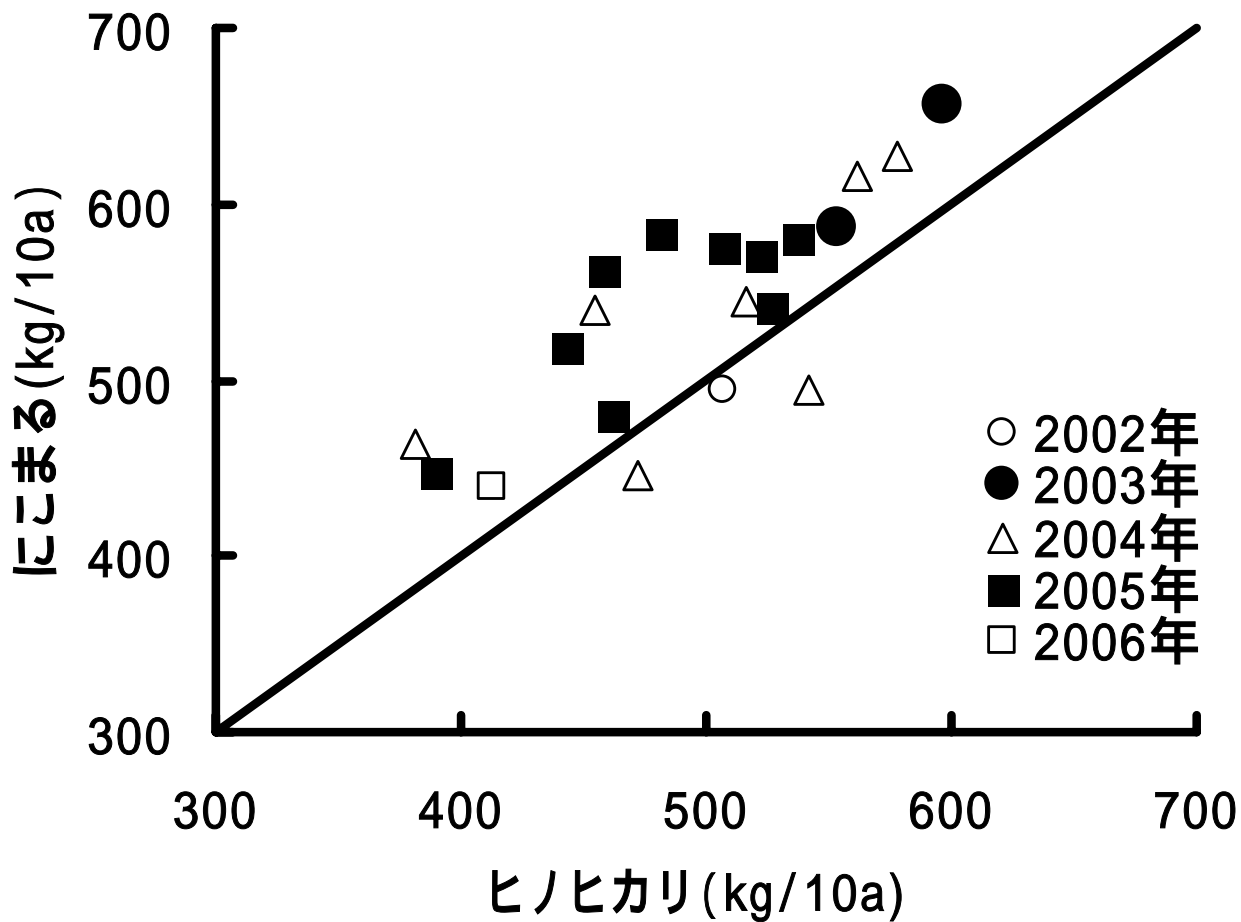


図2 にこまるとヒノヒカリの10aあたり収量の比較



# 「にこまる」の品種特性

ヒノヒカリより粒が大きくそろいも良く、品質も良い



にこまる



ヒノヒカリ

# 「にこまる」の品種特性

ヒノヒカリより高温年の品質が良い

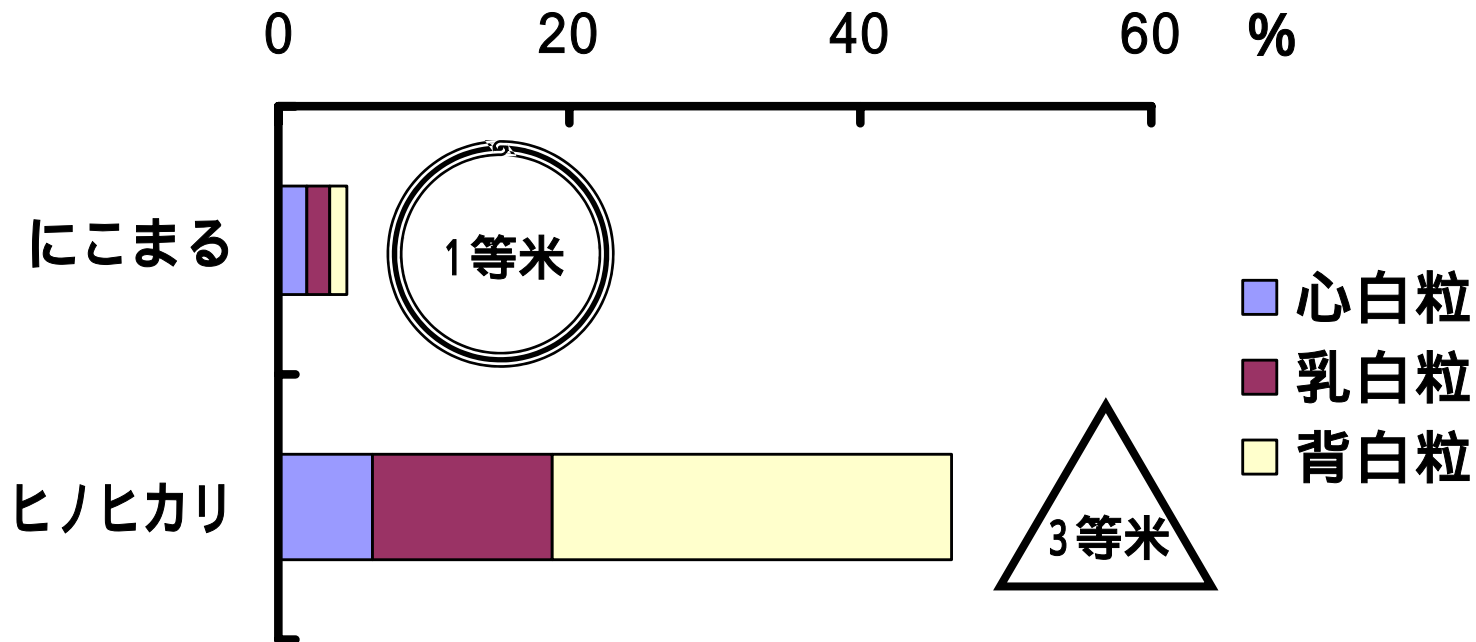


図3 高温年における白未熟粒の発生程度の比較

# 生育の大きな特徴

苗が伸びやすい

稲体がしなやかでなびきやすい



にこまる ヒノヒカリ



ヒノヒカリ にこまる



にこまる ヒノヒカリ



ヒノヒカリ にこまる

# 総合農林試験場での研究内容

- 育苗試験

徒長しない苗作り

- 移植時期試験

最適田植時期の設定

- 施肥試験

にこまるの生育特性に適した施肥量および施肥時期

- 刈り取り適期試験

にこまるに適した刈り取り時期の設定

(出穂後積算気温、成熟期前後日数、籾の黄化程度による判定法)

# にこまるの作付地帯

県央、県南地区の平坦地で栽培が開始されています。  
また県北、五島、壱岐でも試験栽培がされています。

